

誰も知らない戦いの始まり

～東日本大震災 消防の絆 北の大地から～

救出・救助253名、遺体収容102体

札幌市消防局は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際し、救助隊、救急隊や消防ヘリコプターを宮城県に派遣し、緊急消防援助隊※「北海道隊」の中核として懸命な救助・救援活動に従事する一方で、宮城県庁に設置された「消防応援活動調整本部」において「指揮支援部隊長」として、全国から宮城県に集結した緊急消防援助隊を統括指揮するとともに、災害対策本部や防災関係機関との連絡調整にあたるなど、重要な役割を担いました。

公的機関として第一線に立った消防だからこそ語れる、派遣の経緯と現場活動。

3.11を決して風化させないため、また、インフラの課題を解決し、防災、減災、緊急情報伝達手法の構築などに携わるものとして、日ごろの取組を振り返るため、しっかりと耳を傾けたいと思います。

日時 平成25年5月16日(木) 13時30分～15時00分

場所 北海道総合通信局 第一会議室

講師 札幌市消防局総務部施設管理課長 山崎英樹 氏
(震災時 緊急消防援助隊(北海道隊)調整本部作戦班長)



※緊急消防援助隊とは…

消防機関は法律により原則として市町村単位で運営していますが、大規模災害時には、全国の消防機関相互の援助体制の構築が必要であることから、平成7年「阪神・淡路大震災」後に創設されました。